

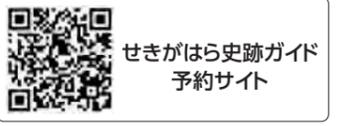


### 散策する際の注意

- 山城は多くが私有地です。ゴミは必ず持ち帰ってください。
- 見学の際に、堀や土塁などの遺構を壊さないように注意してください。
- 道中には険しい箇所があります。十分な体調のもと天候や装備(トレッキングや軽登山の装備)を考えて歩いてください。
- むやみに道から外れることは、足を滑らすなど危険が伴うとともに、周囲の植生を傷つけることになるので、おやめください。
- 野生動物や危険な虫など(スズメバチ・マダニ・ヤマビル・イノシシ・クマなど)に対して、事前対策と現地での十分な注意をお願いします。
- 山中での火器類の使用は禁止されています。山火事の危険がある行為(タバコの吸い殻を捨てる行為など)は絶対にしないでください。

### せきがはら史跡ガイド

希望の時間やコースに合わせて、松尾山のほか関ヶ原の名所や古跡を歩いて案内します。初めての関ヶ原訪問の際には特におすすめです。  
【料金】詳しくは、関ヶ原観光情報ホームページをご覧ください。



【申込方法】右記QRコードを読み取り、予約サイトから申し込むか、申込用紙をHPからダウンロード、若しくはFAXにて取り寄せ、2週間前までにお申し込みください。  
【電話】せきがはら史跡ガイド事務局  
☎0584-43-1139

●お問い合わせ  
関ヶ原町地域振興課  
〒503-1592 岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-58  
電話番号/0584-43-1112 FAX/0584-43-2120  
E-mail/chiikishinko@town.sekigahara.gifu.jp

### 松尾山城の歴史

松尾山城は、大永年間(1521-1528)に近江の浅井氏の家臣堀氏が居城としたのち、元亀元(1570)年に浅井長政が江濃国境の境目の城(長亨軒之城)として、樋口直房を入れたことが「遍照山文庫所蔵文書」に記されています。

その後、織田信長の近江侵攻に際し、信長方の城として、不破光治が在城しました。同じく『美濃明細記』や『新撰美濃誌』にも永禄7(1564)年頃不破光治が在城したことが記されていますが、信長の近江平定後の天正7(1579)年にその使命を終え廃城となりました。

廃城後の慶長5(1600)年9月12日、増田長盛に宛てた石田三成の書状によると、松尾山城が関ヶ原合戦における西軍総大将の毛利輝元を入れるために築かれた城であることが記されていますが、現存する城郭遺構が短期間で作られたものとは考えられません。

『寛政重修諸家譜』の「稲葉家譜」によると、合戦前日に小早川秀秋が松尾山に入り、石田三成が布陣させた伊藤長門守某を追い出したとあります。この伊藤長門守とは大垣城主伊藤盛正のことで、同年8月10日に大垣に入城した石田三成は伊藤盛正に命じて、松尾山に新城を普請させ警備に当たらせたと考えられています。

そして、関ヶ原合戦の前日、小早川秀秋は伊藤盛正を追い出して松尾山に布陣します。翌日の本戦では、東軍勝利の立役者になりました。松尾山城は後世にわたり、小早川秀秋が布陣した山として語り継がれることになりました。



### 松尾山城周辺マップ

**【松尾山城へのアクセス】**  
**【車】** 関ヶ原ICより松尾山麓駐車場まで10分  
**【徒歩】** 関ヶ原駅から松尾山麓駐車場まで徒歩で30分  
 松尾山麓駐車場から山城までは徒歩40分  
 (平井側からも麓から山城までは徒歩40分)  
 ※関ヶ原駅前観光交流館、岐阜関ヶ原古戦場記念館でレンタサイクルを借りることができます。

### 関ヶ原町の山城

**玉城(玉の城山)**  
 玉城は、東山道と北国街道の両方を押さえる要衝に位置しています。南北朝の時代に、左竹義春が足利尊氏に追われて立て籠もったといわれていますが、築城時期も含めて、詳細ははっきりしません。

山頂には東西200mほどの曲輪があり、東西の両斜面には連続竪堀群が残っています。特に西側の帯曲輪に土塁を伴う竪堀を規則的に配置しており、戦国期の後半に改修を受けたことがわかっています。  
 【住所】 関ヶ原町大字玉  
 【アクセス】  
 麓(Pなし)まで、JR関ヶ原駅から徒歩50分。麓から山城までは徒歩20分。



**長比城・須川山砦**  
 長比城跡と須川山砦は滋賀県と岐阜県にまたがる野瀬山山頂に位置しており、近江と美濃の国境で東山道を抑える要衝の地にあります。

『信長公記』には、元亀元(1570)年の織田信長の近江侵攻の際、朝倉氏の力を借りて浅井氏が、長比城・刈安城(上平寺城)を築城したことのほか、開城後、信長がこの長比城に一兩日留まったことが記されています。頂上部には、土塁や様々な種類の虎口、畝状竪堀群など当時の山城遺構がほぼ残っています。

【住所】 関ヶ原町大字今須  
 滋賀県米原市柏原  
 【アクセス】  
 麓駐車場まで、JR柏原駅から徒歩30分、関ヶ原ICより車で15分。麓から山城までは徒歩30分。



### 関ヶ原合戦 布陣図 慶長5(1600)年9月15日午前8時頃

**～合戦の鍵を握った松尾山～**  
 関ヶ原合戦前日の慶長5(1600)年9月14日、西軍小早川秀秋は突如、松尾山に布陣。合戦当日は正午頃まで傍観していましたが、突如、山を駆け下りて大谷吉継の部隊へ雪崩れ込みました。事前の調略、問い鉄砲など寝返りの要因は様々な見解がありますが、この動きが東軍の勝利の要因のひとつとなりました。

0 1km

西軍 東軍 反応軍 傍観軍 ※兵数等については諸説あり

# 松尾山城

## 散策マップ

頂上に残る、壮大な土の城を確かめてみよう!!

### ⑤ 空堀

主郭と西の曲輪の間の大きな谷部分を削平し、巨大な空堀として活用しており、敵の侵入時には、主郭と西の曲輪の両方から攻撃を可能としています。

北側には土塁を、喰違いに設置しています。敵の直進を防いでおり、松尾山北側からの攻撃に備えています。



### ⑥ 南西の曲輪

北西の曲輪から堀切で遮断されており、他の曲輪と比較して削平が甘く、土塁もないため、浅井長政が樋口直房を置いていた頃の遺構と考えられています。南端には尾根斜面に向けた堀切が交互に3本設けられています。

### ⑥ 南西の曲輪



標高293mの松尾山には、西美濃最大級の山城として、曲輪、堀切、土塁など多くの遺構がほぼ完存しています。関ヶ原古戦場を一望できる主郭を含め7つの曲輪が存在し、その規模は東西400m、南北250mにもわたります。

現在見学できる遺構は、削平の甘い南西の曲輪を除き、ほとんどが関ヶ原合戦直前の大垣城城主伊藤盛正の改修によるものと考えられています。北側(関ヶ原側)からの攻撃を意識した造りになっており、関ヶ原方面の城外にはところどころに削平地も残っています。



### ① 東の曲輪

尾根上を東に伸びる曲輪。南側に位置する曲輪とともに、屈曲をつけて横矢がかかる土塁で囲い込んでいます。南北両尾根方向からの攻撃に睨みをきかせていますが、特に北側の土塁が高くなっています。



### ② 主郭(本丸)

地元では古くから城台と呼ばれており、城の中心として機能した曲輪です。城内の一番高いところに位置し、周囲は急峻な切岸に囲まれています。四方を土塁で囲んでおり、北側からは関ヶ原一帯が一望できます。北西側には帯曲輪や縦堀を構え、北側を意識したつくりになっています。



### ④ 馬出状の曲輪

主郭の南側に前方を堀切によって独立させた馬出状の曲輪があります。周囲を土塁で囲み、虎口を守る役目がありました。南端には城門があったと考えられています。



### ③ 枡形虎口

主郭の南端には櫓台を兼ね備えた枡形虎口が構えられています。城内側に土塁が設けられ、直進して侵入できないようになっているほか、城道も斜めに取り付けられています。

